

権力・動労「本部」革マル一体の「6.12デッチあげ告訴事件」での反動求刑をはねのけて闘う



83, 2, 18
No. 1269

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

片岡、吉岡、篠塚、三君の決意

千葉地検は二月十日の「6・12デッチ上げ事件」第15回論告求刑公判に於いて、片岡・吉岡・篠塚三君に懲役六カ月という断じて許せぬ重罪求刑攻撃を行った。
権力・動労「本部」革マル一体の攻撃に、一三〇〇組合員の怒りは頂天にたっしている。
反動求刑と断固対決して闘う三君の決意を紹介します。

バリケードの向うの卑劣分子を断じて許さない

片岡 一博

検察側論告求刑一懲役六カ月に對し、腹の底からの怒りがこみあげる。しかも求刑理由にいたっては、デッチ上げ告訴の張本人・革マル分子嶋田・斉藤のデマ「証言」のみに依拠した、検事嶋田連合の作文を全面的理由としたことである。彼等の「第三者の証言」というものも、船橋西署の清水某警察官、あるいは警察委託病院の院長・三橋「証言」のみというゆ着ぶりである。

さらに重罪を求刑した最大の理由に、「被害感情はきわめて強い」こと、「被告の反省の情がない」ことをあげる一方で、わが動労千葉が分離独立する過程での動労「本部」革マルによる、暴力そのものの組織破壊襲撃の事実を一切隠べいし、かつ擁護していることである。

いかに警察労働運動を方針化したとはいえ、ここまでくれば動労「本部」革マルの正体も歴然としたといえるだろう。

革マル分子嶋田は、論告求刑当日、年休をとって「ニヤニヤ」しながら傍聴にきたのである。

われわれは、このような警察労働運動の推進者・タレこみ分子を一刻たりとも許しはしない。同時に、中曽根反動内閣の三里塚、国鉄への反動攻撃を粉碎

するためにも、「バリケードの向こう側」にたつた動労「本部」革マルの粉碎・一掃をかちとることを決意としたい。

篠塚 康則

われわれ三名に對し、懲役六カ月という極めて不当な求刑を行った検察・警察権力に、私は非常な怒りを覚えると同時に、動労「本部」革マル分子・嶋田、斉藤らに心底憎しみを感じる。「6・12事件」は、動労「本部」革マルと警察権力が一体となり、動労千葉の組織破壊を目的にデッチ上げた攻撃であるにもかかわらず、検察官は論告求刑のなかで「被告らは集団で嶋田、斉藤ら無抵抗の相手に暴行を加えた」などと述べている。

動労「本部」革マルの、百パーセントデタラメなデッチ上げを完全に粉碎し、三名の無罪をかちとり公判闘争に勝利することこそ、国鉄労働運動破壊攻撃をうち破り、三里塚闘争に勝利する道であることを確信します。

次回行われる最終弁論公判にも、き然とした態度で起ち向かい、勝利するまでがんばる決意である。

「警察労働運動」の腐敗分子を一掃しよう

吉岡 一

本日の論告求刑で、三名それぞれ懲役六カ月というまったく

許せない求刑がたわけですが、この一年間の公判の進行を見ても、また、本日の検察側の論告趣旨を見ても、「嶋田・斉藤の証言」以外には何一つ証明することもできず、デッチ上げは苦しいところになってくることははっきりしています。

それから本日、嶋田が法廷にニヤニヤしながら入ってきたが、権力に弾圧を頼みこむことに無上の喜びを感じるという、警察権力と完全に一身同体となった彼らの腐敗した姿を見ることができません。

動労「本部」革マルは、仙台地本への処分問題や国労のストに對して、スト破り行為や誹謗中傷をはじめ、当局の既得権剝奪攻撃のなかで、職場での抵抗闘争を通して奪われた既得権を奪い返そうとの労働者の闘いに對し、「新たな悪慣行だ」といつて騒ぎたて、国鉄本社にタレこんでいます。

今日、権力、当局と一体となり、敵の手先となり、なんでもやるといふ体質が全国的に明らかになっていいると思います。

われわれは彼等の本質をもっともつと暴きだし、もつと追いつめていくことがこの間の闘いの大きな目標でもあるわけです。

三名の無実を勝ちとるとともに、動労「本部」革マルを国鉄戦線から叩き出すまで闘う決意です。
(二月十日の公判終了後の報告集会での決意表明より)